

内科マインドマップ

監訳：福井 次矢

学生時代にも描いたマインドマップ その進化形で知識の構造化を促進する！

近年、膨大な情報の洪水のなかで、情報を整理していわゆる認知負荷 (cognitive load) を軽減することが、効率の良い学習に欠かせません。特に、レイアウトや配色を工夫して複雑なコンセプトを1〜2枚にまとめた資料は、infographic, mind map, one pager などとよばれ、私はこれに大変注目し、SNSなどで探し回ったり、自分で作成したものを発信しています。しかし、必要最小限の情報を選別することや魅力的なデザインを作成するのは、誰にでもできることではありません。マインドマップに至っては、時に無味乾燥な情報の羅列に終わってしまうことがあり、そうすると学習意欲を削いでしまうので逆効果です。専属のイラストレーターが欲しいと何度も思いました。

本書は、内科学に関する100以上の疾患概念マインドマップを見開き2ページで紹介する、非常に画期的な教材の翻訳版です。世界中の医学生が試験前に自身で描いてきたであろうマインドマップを、ここまで進化させて出版に至っている点は驚異的です！

最大の特徴は、綺麗な配色とレイアウトで、疾患の定義、疫学、臨床像、

病態生理、診断基準、治療法などが明確に示されていることです。パステルカラーの見出しボックスはモダンなデザインで、読む気がそそられます。特に、ほぼすべての疾患においてその定義が明記されている点が、他の類書と異なります。「定義」がしっかりと把握できないと自信をもって診断できません。

この教材のシンプルなマインドマップを活用することで、読者は疾患概念の理解を深め、個別の“illness script”を確立しやすくなります。illness scriptとは、臨床状況に直面した際、医師が頭のなかで参照して、症状や所見を解釈し、可能性のある診断を導き出すための基盤となる知識の枠組みのことです。充実したillness scriptを構築したうえで臨床経験を積む過程で、臨床推論スキルは磨き上げられていきます。

本書では簡潔な説明に徹しつつ、鑑別疾患のフレームワーク、語呂合わせ (mnemonics) や人物名を冠した徴候 (eponyms) も提示してくれていますので、病棟や外来で短時間のchalk talkとよばれるミニ講義の手引きとし



MEDSi
6,930円(本体6,300円+税10%)
A4/318頁
ISBN978-4-8157-3083-3

ても役立ちます。個人的には弁膜症、胃癌、間質性肺疾患、多発性硬化症、結核、嚥下障害の分類などに特に魅了されました。このマインドマップの構造を反復して読み、教えられるくらい暗記した頃には指導医として魅力的なスキルを身につけていることでしょう。何枚ものプレゼンスライドは不要です。複雑な疾患知識の構造分類とエッセンスをすっきりと伝え、教え子の学習意欲を高めましょう。原書が2021年に出版されているので、治療法なども最新のものにアップデートされているのも嬉しいですね！

この視覚的にも魅力的な教材は、医学生、看護学生や研修医の学習のモチベーションを高めるだけでなく、指導者にとっても内科領域の知識を効果的に教えるための優れたツールであることは疑いありません！

野木 真将 (クイーンズメディカル
センター ホスピタリスト/亀田総
合病院 総合内科)